

## 論文番号 79

担当

滋賀医科大学 福祉保健医学講座

題名 (原題/訳)

Average volume of alcohol consumption, patterns of drinking, and all-cause mortality: results from the US National Alcohol Survey

アルコール消費量、飲酒習慣と総死亡率との関係：米国アルコール調査結果

執筆者

Rehm J, Greenfield TK, Rogers JD

掲載誌 (番号又は発行年月日)

American Journal of Epidemiology 2001;153:64-71.

キーワード

アルコール飲用、データ収集、飲酒、飲酒習慣、追跡調査、死亡率

要旨

飲酒量と総死亡率との関係を明らかにするために、本疫学調査が実施された。在宅の5,072名、米国民の代表集団が1984年に調査された。1984年から95年までの追跡期間中に532名が死亡した。男性においては、飲酒量と総死亡との間に有意のJ型関係を認めた。女性でも同様の傾向を認めしたが、有意ではなかった。飲酒量によりカテゴリーに分けたものを、さらに時に多量飲酒習慣を伴うもの（一度に8杯以上飲むもの、あるいは、少なくとも月に1回酔いつぶれるもの）と伴わないものにおいて、死亡率との関係を見た。その結果、軽度から中等度の飲酒者で時には多量飲酒するものは、そうでないものに比して、死亡率が有意に高かった。また、禁酒者においても、同様の結果が得られた。つまり、過去における問題飲酒は死亡率が高いことが示された。このような結果は、これからの疫学調査には飲酒習慣の中に、時には多量飲酒するというような、飲酒形態の調査も必要であることを示している。